

人間開発報告書 2021－2022 及び人間の安全保障特別報告書(日本語書籍出版)

ローンチ・イベント 武井外務副大臣による開会挨拶

(赤堀外務省地球規模課題審議官代読)

2023 年 4 月 26 日 (水) 1500-1630 於：三田共用会議所

武井俊輔・外務副大臣の挨拶を代読します。

ペドロ・コンセイソン UNDP 人間開発報告書室長、

峯陽一 JICA 緒方貞子平和開発研究所長、

武見敬三 参議院議員、

並びにご列席の皆様、

本日は、ペドロ・コンセイソン室長を迎え、最新の人間開発報告書及び人間の安全保障特別報告書の日本語書籍出版のローンチ・イベントが開催されることを、心からお祝い申し上げます。

また本日は大変お忙しい中、多くの関係者の方々にお集まりいただき、心から感謝申し上げます。活発なご議論をお願いします。

人間開発報告書 2021－2022 のテーマは、「不確実な時代の不安定な暮らし：激動の世界で未来を形づくる」となっています。

現下の国際社会は、新型コロナやロシアによるウクライナ侵略に端を発するエネルギーや食料の問題、深刻化する気候変動などの地球規模課題など、複合的な危機に直面しています。

人間開発報告書で公表されている「人間開発指数」の全世界の平均値が、過去 32 年で初めて 2 年連続で下落していることは、この危機

の重大さを如実に表していると言えます。

日本政府として、UNDP をはじめとする国際機関や国際社会と連携し、こうした危機への対処に積極的に貢献していく決意を改めて表明します。

また、日本政府は、1994 年の人間開発報告書で初めて公に提唱された「人間の安全保障」を重視してきました。

UNDP が昨年発表した「人間の安全保障特別報告書」では、従来の人間の安全保障の 2 つの柱である「保護」と「能力強化」に加え、「連帯」の重要性が強調されています。不確実な時代における複合的な危機への対処には、様々なアクターが連帯の精神をもって、協調して取り組むことが必要不可欠です。

昨年 9 月、岸田総理は国連総会一般討論演説において、新たな時代における人間の安全保障の実現の必要性を強調しています。日本政府として、特別報告書の提言も踏まえつつ、新たな時代における人間の安全保障の推進に引き続き取り組んでいく所存です。

その具体例として、日本の議長国の下で先週開催された G7 長野県軽井沢外相会合の成果文書において、G7 外相が、人間の安全保障を促進し、誰一人取り残さない社会の構築に向けて取り組むことが再確認されました。

また、改定に向けた作業が進んでいる開発協力大綱の政府案では、新しい時代の人間の安全保障を、我が国のあらゆる開発協力に通底する指導理念と位置づけ、人間の主体性を中心においた開発協力を推進していく旨を記載しています。

このような人間の安全保障の概念の普及に加え、開発協力の現場においてそれがしっかりと実践されることが極めて重要です。この点、我が国は、二国間の支援のみならず、地球規模の課題に適切に対処する観点から、国際機関との連携を通じた支援も重視しています。

とりわけ UNDP は、開発の理念の提唱のみならず、170 もの国や地域に拠点を有する、開発分野の中核的な国連機関です。その意味で、UNDP が、開発途上国の開発協力における人間の安全保障の実践に主導的な役割を果たし、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献することを強く期待します。日本政府と UNDP は、戦略対話でその具体策をすり合わせています。

日本政府として、人間開発報告書及び人間の安全保障報告書が、不確実な時代にあってもなお人類が繁栄できるような、国際的な取組の加速に役立つことを願います。

以 上